

エントリー層のためのパソコン購入時の選択ポイント
(Ver.1.0)

2022年3月

一般社団法人 電子情報技術産業協会(JEITA)

情報・産業システム部会

PC・タブレット事業委員会／PC・タブレットユーザサポート専門委員会

【はじめに】

今回、パソコンの知識、経験の少ない初心者層（以下「エントリー層」とします）がパソコンを購入するにあたり、確認すべき主要な選択ポイントをご提示いたします。購入時の一助となれば幸いです。

今回は特に、**量販店等で販売されている主なメーカーの個人・家庭向けの Windows OS が搭載されたノートパソコンを購入される場合**を想定しています※。

※ビジネスユース、特殊な用途で使う場合、動画編集で主に使う場合、ゲーミング PC、アプリの要求する仕様が初めから指定されている場合、BTO パソコン（細かく仕様を設定、カスタマイズできるパソコン）等については除きます。

【購入前に確認すべきこと】

自分の使用シーンややりたいことをよく把握して、合致し、かつ、できるだけ性能に余裕があるパソコンを選択することをお勧めします。主な選択ポイントとしては、携帯性、見やすさ、処理能力、拡張機能、等になります。

1. デスクトップパソコンかノートパソコンか？

パソコンのタイプを選択する大きな区分としては、「デスクトップパソコン」か「ノートパソコン」か、の選択があります。現在、ノートパソコンの購入比率はパソコン全体の 8 割を超えており、ノートパソコンが大多数です。基本的に、デスクトップにしたい理由が特になければ、ノートパソコンを購入すると良いでしょう。

デスクトップパソコンは、どちらかという、常時固定した場所でお使いになる方、大画面を好む方、ハイスペックな仕様が比較的必要な方、動画や TV 等を主に見られる方の購入比率が高くなっています。デスクトップパソコンは大画面で楽しむ、見やすいという他にも、例えば、性能・拡張性が比較的高い、キーボードが大きい、ブルーレイドライブや DVD ドライブ等（以下「光学ドライブ」とします）が通常付いている、などの特長があります。このような要望があればデスクトップパソコンも良いでしょう。

なお、ノートパソコンに別途購入された外付けのディスプレイを接続することで、ノートパソコンであっても大画面、かつマルチ画面での操作が可能となります。画面の大きさだけが問題なら、家で使用する時は、ノートパソコンに外付けの大画面のディスプレイを接続して使用するという方法があります。

2. ノートパソコンの選び方

（1）大きさ、ディスプレイのサイズ・仕様

ノートパソコンのうち持ち運びに適した小型、軽量のパソコンを特に「モバイルノート」と呼びます。（今回は 14.0 型以下のノートパソコンを「モバイルノート」とします。）ノートパソコンの中でも特にモバイルノートは携帯性に優れる一方、画面がその分コンパクトになります。（画面サイズは画面の対角線の長さを表すもので、1 型は 2.54cm に相当します。）

頻繁に外出して持ち歩く必要があれば、通常はモバイルノートの選択になります。モバイルノートは、カバンに大学ノートが入る程度の大きさと厚み 3 cm ほどのスペースがあれば入ります。また、外出で持ち歩くことはないが、家の中のあちこちで使うことが多い場合は、より大きい普通のノートパソコンも良いでしょう。

モバイルノートは、12～13.3 型程度が主流であり、大きいノートパソコンは、15.6 型が主流となっています。大きいノートパソコンは、画面の大きさのほかにも、テンキーが独立していることが多かったり、光学ドライブが標準で付いていることが多かったり、などの特長があります。

エントリー層のためのパソコン購入時の選択ポイント(Ver.1.0)

また、液晶ディスプレイには、解像度、光沢の有無（グレア、ノングレア）、広視野角かどうか、による性能の違いがあります。特に画像を美しく見るためには高い解像度が必要であり、最近ではフル HD(1920×1080)のものが主流となっており、フル HD 以上を選択するとよいでしょう。また、グレアのタイプはコントラストが高いので画面が綺麗に見えます。一方ノングレアのタイプですと、映り込みが気にならず、長時間の使用に適しています。また、広視野角のタイプなら、どの角度から見てもきれいに見えます。

以上、カタログのスペックだけでなく、実際に店頭でディスプレイを見てみると良いでしょう。（実際に見てみないと、後で明るさ、輝度、色味が思ったものと異なると言われる方がいます。）

（２）PC の処理能力（CPU、メインメモリ、ストレージ）

パソコンもコンピューター（電子計算機）の一種ですので、基本的な性能は処理能力によって決まります。中でも、CPU、メインメモリ、ストレージに関しては、大きな要素になります。

CPU（プロセッサ）ですが、まさしくパソコンの頭脳ともいえる部分であり、基本的な処理能力はこれで決まります。

CPU メーカーはインテル社や AMD 社が代表的です。インテル社の場合には、大まかにいって、Celeron、Core i3、Core i5、Core i7 などのシリーズがありグレードが異なります。因みに、AMD 社にも類似したグレードによる違い、区分があります。

できるだけ最新で高性能の CPU が搭載されたパソコンを購入することで、余裕を持ったデータ処理を行うことができます。CPU は他の部品と異なり、購入後の取り換え、追加は極めて困難です。（仮に修理業者等に依頼して交換しても、改造とみなされ、メーカーの修理や保証の対象外となります。）よって、慎重に選択する必要があります。

CPU の性能は、動作周波数、コア数、スレッド数、キャッシュメモリにもよりますが、概ね CPU のグレードに比例します。

メインメモリは主に一度に処理できるデータの量を表し、4GB、8GB、16GB 等がありますが、大容量であればあるほど、余裕をもった処理が可能になります。メモリは CPU と異なり、大容量だからといって処理速度自体が速くなる訳ではありませんが、メモリが不足するとスワップ（データの一部をストレージに退避させる処理）が発生しパソコンの動作が遅くなることがあります。特に動画を多く見る場合や一度に複数のアプリを動作させたい場合等は、余裕をもったメモリにする良いでしょう。（メモリの容量は目の前の作業台の大きさに例えるとわかりやすいです）メインメモリに関しては、機種により購入後に増設できる場合もありますので、購入候補のパソコンのメモリの拡張性も予め確認しておく良いでしょう。

ストレージとは、通常は、HDD（ハードディスクドライブ）や SSD（ソリッド・ステート・ドライブ）などのデータを記憶させておく装置となります。よって、容量が大きいほど、多くのデータを記憶できます。特に動画、画像など大きなデータを記憶する必要がある場合は大容量のストレージが内蔵された機種を選ぶ必要があります。しかし、単にデータの蓄積だけであれば、外付け用の HDD や SSD も発売されていますので、後から購入することも可能です。

ストレージで気を付けたいのは、処理速度にも関係することです。物理的なドライブが回転してデータを読み書きする方式の HDD よりもメモリーチップにデータを読み書きする方式のドライブである SSD の方が、処理速度が速く、かつ衝撃にも強いというメリットがあります。従来は SSD の価格が高かったのですが、近年価格が下がっており、最近の傾向としては、（ノートパソコンを中心に）SSD が搭載されることが多くなっており、ノートパソコンには特にお勧めいたします。

また最近では、写真や動画、文章などをインターネット上に保存できるオンラインのストレージサービス（OneDrive・Google Drive・iCloud など）も主流です。共有したファイルは、他のパソコンやタブレット、スマートフォンなどから閲覧や編集することも可能です。

(3) その他の機能、拡張性（光学ドライブ、入力機器、インターフェース、バッテリー等）

その他、必要に応じて検討すべき機能として、光学ドライブが挙げられます。CD や DVD の音楽や動画等のコンテンツを再生したり、データを媒体にコピーしたりする場合には必要な機能となります。

筐体はその分大きくなるという問題の他にも、最近ではアプリやデータの Web 上からのダウンロードにより、特にディスクの媒体がなくても事足りてしまうことが多いため、最近のノートパソコンには光学ドライブなしのモデルが増えています。（光学ドライブは後からオプションとして購入が可能です。）

入力機器としては、最近タッチパネル採用のディスプレイがあり、タブレットやスマホ感覚で入力可能なパソコンもあります。（持ち運ぶ際にキーボードをはずしてタブレットとして使えるモバイルノートもあります）。

キーボードについてはパソコンによりキーの大きさやタッチが異なるので、入力作業が多い方は、できれば店頭で実際に触ってみると良いでしょう。

マウスはパソコンにより標準でついているもの（多くがワイヤレスマウス）とついていないものがあり、ついていない場合は自分で用意する必要があります。また、コロナ禍の影響でパソコンを使い、リモートで人と話す機会が多くなっています。Web カメラとマイクが搭載されていることを製品仕様で確認してください。

またパソコンには USB 関連の端子やメモリーカードスロット、HDMI 出力端子等、様々なタイプのインターフェースが接続可能となっていますが、自分が使う目的のものがついているか、不足はないかをよく確認しておくとう良いでしょう。

バッテリーに関して言えば、外に持ち運ぶことが多い人は、バッテリーの持ち時間ができるだけ長いモデルを選ぶとう良いでしょう。ただし、カタログに記載されているバッテリー稼働時間は、あくまで一定の条件に基づいて測定したためやすの時間であり、負荷のかかる作業を行うと、実際の持ち時間が半分にも満たない場合があるので注意が必要です。

最近、生体認証が可能なパソコンもあります。（Windows の Hello という機能を利用）指紋認証や顔認証などにより、パスワードの代わりに Windows のログオンが可能となっており、より便利に高セキュリティな利用が可能です。

最近パソコンのネット接続は、有線よりも無線が主流です（いずれの場合も専用のルーターが必要です）。無線の場合、最近のパソコンは最新の Wi-Fi 規格に適合するようになっています、一方有線 LAN を使う場合には、別途オプションで「USB—LAN アダプタ」が必要となる場合がありますので、確認が必要となります。

また、パソコンの購入に合わせて Wi-Fi の規格 Wi-Fi6(ax)や Wi-Fi5(ac)など、規格にあった Wi-Fi ルーターを購入するなど見直してはいかかでしょうか。インターネットの速度は、Wi-Fi ルーターとの接続やアンテナ数などによっても、通信速度にも影響がでます。

(4) OS やインストールソフトウェア、保証やサポートについて

現行のパソコンには Windows の最新の OS が搭載されています。一般的な家庭用パソコンの場合、ほとんどが Home というタイプが搭載されていますが、Pro というタイプが搭載されている機種もあります。Pro の場合は、セキュリティ面をはじめ、主にビジネスユースにより適した機能が多く搭載されていますが、個人ユースで使っても、Update の時期を自分でコントロールできるなどのメリットがあります。

インストールされているアプリの一覧は、各パソコンのカタログの中に記載されていますので、自分が使いたいアプリがあるかどうかを購入前に必ず確認されることをお勧めします。特に Office 関連のソフトには、文書作成や表計算、メールソフト、プレゼンテーションソフトなどが含まれ、日常的にも使用頻度が高く、実際に多くのパソコンにインストールされています。どのようなタイプの Office で、何がインストールされているかを事前に確認しておきましょう。

また、購入候補のパソコンメーカーのサポート体制、保証などについても併せて、事前に確認しておくとう良いでしょう。コールセンターのサービス内容もパソコンメーカーによって、それぞれ違いがあります。また、メーカーの保証についてはほとんどのパソコンが 1 年間となっています。しかし、できれば延長保証（特に事故保証対応のもの）を併せて購入しておくとう、万一、思わぬ故障をした場合でも、その保証期間中は、規定にもとづき、無償で修理が可能となります。

エントリー層のためのパソコン購入時の選択ポイント(Ver.1.0)

3. 店頭におけるノートパソコンの構成比率の目安

ここでは、店頭で展示されている主要なノートパソコンのラインナップのうち、各スペックの構成を比較し、主にどの程度の機能、スペックが主流なのかを比較してみます。（JEITA 加盟 4 社における 2021 年秋時点の総合カタログ記載品の主要な機能、スペックを比較したのになります）

(1) ノートパソコンの画面サイズ(63 機種中)



上記より「12 型～13.3 型」と「15.6 型」のボリュームが大きくなっています。前者がモバイルノートで、後者が大きい画面サイズで、やや重量があるノートパソコンです。いずれにしても、購入後になって、思っていたイメージと実際の大きさ重さが違うということもありますので、実際に店頭で大きさを見たり、手に取って重さなどを確認したりしてから購入されることをお勧めします。

(2) ノートパソコンの CPU のスペック比較（63 機種中）



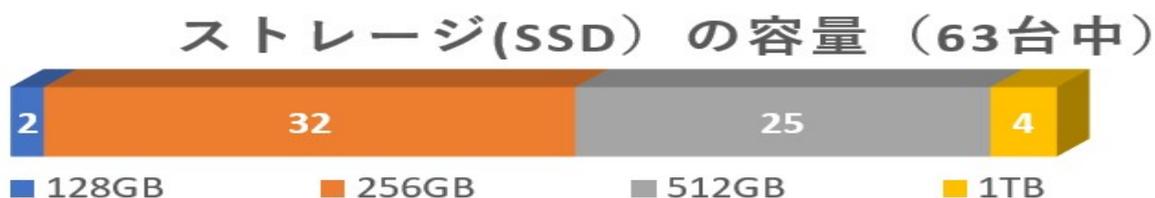
ここでは、代表的な CPU メーカーであるインテル社における現行のシリーズ名の括りを基準に説明します。右になるほどハイスペックですが、現在一番多いのが、Core i7 シリーズです。次が Core i5 シリーズです。Core i5 以上が望ましいと思われます。

(3) ノートパソコン内蔵メモリ比較（63 機種中）



8GB が主流となっています。やはり 4GB では、簡単なことだけならいいかもしれませんが、余裕がありません。そこで、8GB はほしいところです。また、比較的大きなリソースを消費するような動画やアプリを使用する場合などは、16GB あればかなり余裕があります。

(4) ノートパソコンのストレージ(SSD) (SSD 内蔵 63 機種中) ※HDD モデルは省略。



ノートパソコンの SSD の容量は、256GB か 512GB が主流となります。動画など大容量のデータを扱うことが多いユーザーは、512GB のものを選んでおいたほうが無難といえます。勿論、バックアップ用のストレージ（外付けの HDD か SSD 等）を購入され、こまめにバックアップをされる場合等は、少な目の容量でもよいかと思われます。

(5) ノートパソコンの光学ドライブ



光学ドライブには、DVD ドライブ（スーパーマルチドライブ）とブルーレイドライブの主に 2 種類があります。さらに、純正オプションかサードパーティーかを問わず、後から外付けでも付けられますので、光学ドライブに関しては自身の必要性、携帯性との兼ね合いで、要否を判断していただくことになります。

【パソコンの選択について（まとめ）】

パソコンは、個人にとっても、今やなくてはならない必須のツール、デバイスとなっています。一方、一般的な家電製品等に対し比較的高額で、気軽に購入できるわけではありません。後で後悔しないように、その為の一助として、当該コンテンツを参考にいただければ幸いです。

以上

| | | |
|-----------|---------|-----------|
| 改訂履歴 | | |
| 2022/3/25 | Ver.1.0 | 初期バージョン掲載 |